

## 迫るIFRSの強制適用

## SuperStreamの導入で日本企業に即した恒久的な対応を実現する。

SSJ 代表取締役社長 谷本善男氏に聞く

国際会計基準(IFRS)の適用は上場企業のみならず、非上場の中堅・中小企業にも少なからず影響を及ぼす。企業の会計システムにも制度の変化に合わせた柔軟な対応が求められる。エス・エス・ジェイ(以下SSJ)が提供する統合業務パッケージ「SuperStream」は、国産ソフトウェアのトップブランドとして、国内企業のニーズに合わせたIFRSへのソリューションを提供している。SuperStreamの概要と今後の戦略について、SSJ代表取締役社長の谷本善男氏に聞いた。

## 中堅・中小企業にもIFRSへの対応が求められる

——日本企業に対してIFRSが2015～16年に強制適用される見込みですが、具体的に何がどのように変わるのでしょうか。

谷本 IFRSはすでに約110カ国で適用されています。05年に欧州連合(EU)で全面的に採用され、07年には中国でも採用されるなど、日本と米国を除くほとんどの主要国がすでにIFRSに対応しています。

IFRSの特徴は「原則主義」という考え方に集約できます。会計に関する原則のみが示され、具体的な判断基準は明記されていないため、個々の事例について企業が自ら考え、判断する必要があります。細則主義をとる日本基準とは正反対の考え方で、多くの企業にとって慣れるまで時間を要するかもしれません。

日本の会計基準もIFRSの強制適用に先立ち、順次IFRSとのコンバージェンス(取れん)が進められています。例えば10年4月1日以降に開始する事業年度から資産除去債務の計上が義務付けられました。また、10年4月1日以降開始する事業年度の年度末に係る財務諸表からは、包括利益の表示も義務付けられます。日本基準とIFRSの差異は縮小傾向にあるのです(図①)。

グローバル化が進む世界経済の中で、もはや日本だけがローカルな会計基準に固執することはできません。世界共通の会計基準の導入は、日本企業にとって避けられないといえるで

しょう。

——非上場企業や中堅・中小企業へはどのような影響が考えられますか。

谷本 IFRSの適用は連結ベースでの財務諸表に求められるため、上場企業の関連子会社にも直接的な影響が及びます。また、中堅企業であってもグローバルに展開する企業であれば、外国企業と同じ物差しを使う必要があります。

さらには、取引先企業がIFRSを採用している場合にも一定の影響があります。IFRSでは出荷ではなく検収基準で売り上げが計上されるため、当該企業も商品を相手先が検収した時点で売り上げを計上する仕組みに変える必要が出てきます。

中堅・中小企業や非上場企業も、上場企業と何らかのかかわりを持つ以上、IFRSの影響は避けられません。ただし実際にIFRSを適用しようとするれば、システムの構築や二期比較などの検証期間が必要となるため、検討から導入までには少なくとも4～5年はかかるでしょう。幸い、企業の意識は変化しているようです。09年は「そもそもIFRSとは何なのか」という声が圧倒的に多かったのですが、10年に入ってから「現在の会計システムをどのタイミングでどう変えればいいのか」といった具体的な問い合わせが増えてきました。

IFRSの強制適用を15～16年と推測し、並行稼働が14年ごろから始まる

とすれば、残された時間は決して多くありません。10年、11年にはIFRSの適用に向けてスタートを切る必要があるのではないのでしょうか。

## IFRSにもすばやく対応 絶大な信頼を誇るSuperStream

——SSJが提供する会計システム「SuperStream」の特徴を教えてください。

谷本 SuperStreamは企業の財務会計などのバックオフィスを支援する統合業務パッケージです。会計システムを中心に、個々の業務に対応したさまざまなシステムを提供します(図②)。システム構築においては、ユーザー企業に最適なシステムを提供し、ニーズに合ったシステムを低コストで構築できるのが特徴といえます。

SuperStreamを支えているのは、全国におよそ100社ある、販売やサポートを担うパートナー企業です。各社がそれぞれの特徴や強みを生かし、顧客に合ったソリューションを提案します。SSJのパートナーは他のベンダーより圧倒的に強いと自負しています。

——導入企業からの評判はいかがですか。

谷本 SuperStreamは累計5700社以上のユーザーにご利用いただいております。IT専門誌などの顧客満足度調査では常に上位の評価をいただいております。製品そのものの機能や導入のしやすさ、コストパフォーマンスのほか、パートナーの顧客への対応についても高い評価を受けています。

09年7月には、ユーザーの声をSSJに直接伝える組織として「ユーザー会」が発足しました。会合ではSuperStreamの機能について、ユーザー企業同士が非常に熱い議論を交わしています。それだけの製品に強い思い入れがあり、信頼と期待が大きいということにほかなりません。そんなユーザーの要望に応えるためにも、SuperStreamは絶えず進化し続けなければいけません。

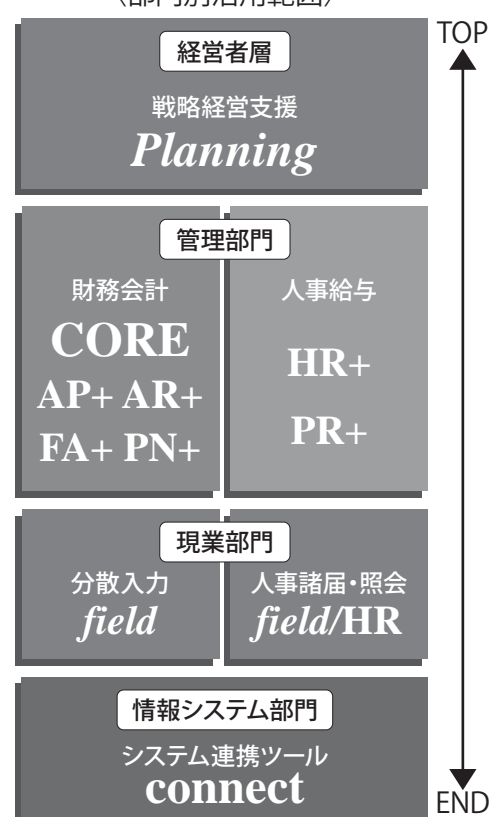
——IFRSへのコンバージェンスや強制適用に向けて、SuperStreamは今後どのように対応していくのでしょうか。

谷本 直近では10年4月に適用された「資産除去債務」に対して、2月中にSuperStreamを対応させました。今後は「包括利益計算書」や「過年度遡及(そきゅう)修正」などにも対応する予定です。これらは、日本の税制とは全く異なる考え方が、こうした大きな変更につい

たにもよしお:  
1971年住友金属工業入社後、住友金属システムソリューションズ(現:キャノンITソリューションズ)などを経て、2008年エス・エス・ジェイ取締役に就任。09年から同社代表取締役社長。



図②「SuperStreamのコンセプト」(部門別活用範囲)



てもしっかり対応していく予定です。

もちろんパートナーの役割も重要です。単にシステムをIFRSに合わせるだけでなく、パートナーがユーザーに合わせて具体的なコンサルティングを行うことで、ユーザーは本当の意味でIFRSに対応していただけるようになると思います。

IFRSへの対応は、ユーザーにとっては、「守り」の対応である半面、変革への大きなチャンスでもあります。私たちの役目は、単に制度改正という教科書にのっとなって、システムを対応させるだけではありません。ユーザーに多くの付加価値を提供し、IFRSへの対応を契機にした、新しいビジネス展開への手助けこそが真のミッションであると考えます。

例えばグループ経営への対応です。

IFRSでは連結ベースの財務諸表の公表が求められるため、グループ会社もIFRSベースで決算書を作成する必要があります。各社が個別に対応するのは難しいですが、SuperStreamをグループ全体で使えるようにすれば、各社の負担は減ると考えられます。

複数元帳への対応も重要なポイントとなるでしょう。従来の日本基準と

IFRSの間で損益の異なるケースが発生するため、経営層には両方の基準で損益をリアルタイムに把握することが求められるからです。12年ごろには複数元帳機能を提供したいと考えています。このほかにも、IFRSへの対応という枠を超えて、ユーザーのニーズに合致した新たな製品やサービスを提供していく予定です。

## 中堅から中小企業までその野を拡大 IFRS適用をチャンスととらえる

——国内ベンダーだからこその強みはありますか。

谷本 SSJは日本国内において15年間、企業会計に特化したビジネスに取り組んできました。この15年間の経験が、ユーザーである国内企業のニーズに対してきめ細かなソリューションを提供する大きな礎となっています。さらにパートナー企業からの支えも他社優位性を誇っています。SuperStreamは、コンサルティングファームやシンクタンク、メーカーなどさまざまな強みを持ったパートナーに支えられていることで、大きな信頼を勝ち取っています。キャノンマーケティングジャパングループの一員として、今後もさらにブランド力を高めていきたいと思えます。

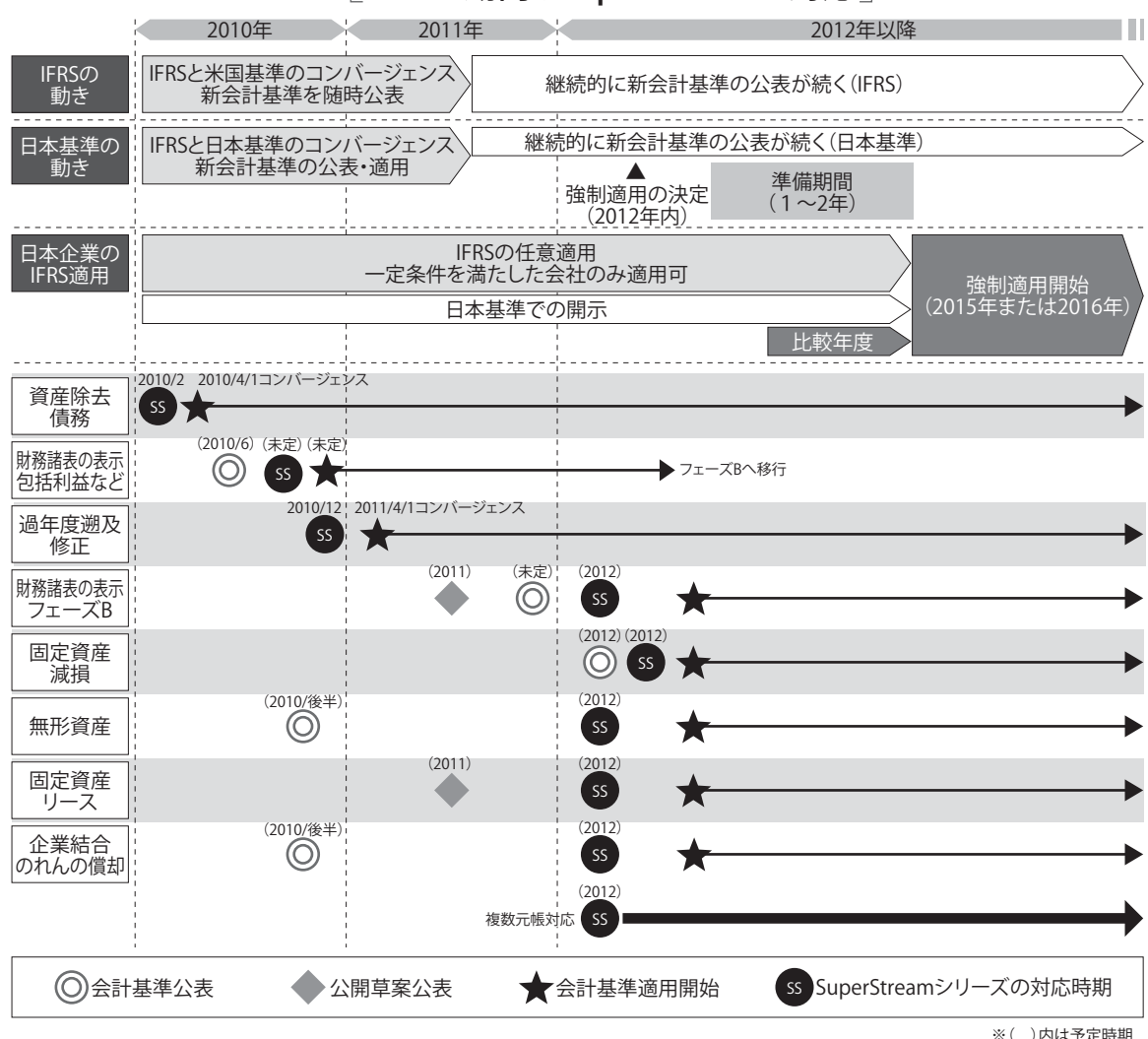
——今後どのようにビジネスを拡大させていく予定ですか。

谷本 年内にクラウドコンピューティングに対応したシステムを投入する

つもりです。初期導入費用を抑えることが可能になり、システムを導入しやすくなるでしょう。特に中小企業にとってメリットは非常に大きいと考えます。12年までに8000社、15年には1万社までSuperStreamのユーザーを広げることが目標です。顧客層の拡大におけるデファクトスタンダード(事実上の標準)の地位を確立すれば、ユーザーにとっても何かと利便性が増すでしょう。

IFRSの適用は会計にとどまらず、企業経営そのものに大きなインパクトを与えるものです。中堅・中小企業の経営者の皆さまには、IFRSへの対応をネガティブに考えるのではなく、まずは経営戦略を見直す絶好の機会ととらえてください。そして、SuperStreamの導入がIFRS適用を今後のグローバル展開に向けた大きなチャンスに変えたいと確信しています。

図①「IFRSの動向とSuperStreamの対応」



## 広告

企画・制作＝  
日本経済新聞社クロスメディア営業局

Canon キヤノンマーケティングジャパングループ  
エス・エス・ジェイ株式会社

〒104-0054 東京都中央区勝どき6-1-15 勝どきYSビル  
TEL: 03-5548-7851 (代表)  
http://www.ssikk.co.jp/

SuperStream